年　　組　　番　氏名

契約の重要性、消費者保護の仕組み**ワークシート**

１　朝起きてから学校に来るまでの行動を書いてみよう。

　起床　→　例）洗顔・歯磨き　→　水を飲む　→　テレビを見る　　→　着替える　→　髪の毛を整える

　　　　　朝ご飯を食べる　→　歯を磨く　→　自転車で登校する　→　コンビニでパンを買う　→　学校

２　上記のような行動つまり生活する際に必要なものはどのようにして得ているのか。

購入＝商品やサービスと（　　お金　　）を交換　　　←お店や業者の人との**約束**＝「　契約　」

３　【契約クイズ】に挑戦しよう。（「社会への扉」Ｐ．１～２）

　解答　Ｑ１：　③　　Ｑ２：　①　　Ｑ３：　②　　Ｑ４：　③　　Ｑ５：　①

４　消費者保護について考えてみよう。

1. なぜ、法律ではＰ．５の表にあるように、特定の取引に対してクーリング・オフ制度を定めているのか。

（「社会への扉」Ｐ．５　ワーク３）

例）不意打ち的な勧誘で契約してしまった場合や、仕組みの内容が理解しにくい商品や継続的なサービスで

効果が不確かなものについて契約してしまった場合は、消費者が十分に判断して契約をしていないことが考えられる。契約した後、消費者にいったん冷静に考え本当に契約して良いか考える時間を与えることで契約トラブルの予防・解消につながる。

（２）消費者保護に関する法律を調べてみよう。

例）消費者基本法、消費者契約法、消費者教育推進法、製造物責任法（PL法）　など

５　消費者トラブルにあったとき、消費生活センターやお客様相談窓口に相談することによって社会がどう変わるか。

　　消費生活センター相談員の話を聞きながら考えてみよう。

・相談しないと・・・

　例）消費者トラブルにあった場合、諦めて行動しないでいるとトラブルや不正な取引の被害が続き、被害が拡大する。

　　・相談すると・・・

例）個々のトラブルが解決されるだけでなく、全国の消費生活センターで受け付けた相談の情報が国や都道府県に伝わって法律が整備されたり、不適正な取引・表示・安全性を欠く製品が改善されたりするなど、消費者が安全・安心に暮らせる社会に変わっていく。

　　◇消費生活センターに相談するときは

　　　　消費者ホットライン「　　　　　」番

　　年　　組　　番　氏名

家計管理**ワークシート**

１　生活を送るうえで必要な費用を書き出そう。

例）食費　電気代　水道代　ガス代　通学費　　など

２　家計の構造をまとめよう。

　　　　　　　　　　　　　　　　　（　預貯金の引き出しなど　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

実収入以外の収入

収入

特別収入

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　ボーナスなど　　　　　　　　　　　　　　）

実収入

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　給料、仕送り、アルバイト、奨学金など　　）

経常収入

消費支出

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　食費、住居費、光熱水道費、被服費など　　）

実支出

非消費支出

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　所得税、社会保険料など　　　　　　　　　）

支出

実支出以外の支出

　　　　　　　　　　　　　　　　　（　預貯金、任意保険、クレジット、奨学金返済など　　　　　　　　）

３　収支のシミュレーションをして、考えたこと、感じたことなどをまとめよう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 20歳代後半 | 40歳代後半 | 70歳代 |
|  |  |  |

４　多重債務に陥らないために気を付けることをまとめよう。

例）自分の資産や支払い能力を把握し、返済できる見込みのない借金をしないようにする。

５　将来使うお金の管理方法

　①預貯金　（目的：　車検、友人の結婚式、家電の買い替え　など　　　　　　　　　　　　　　　　）

　②民間保険　　（目的：　事故、怪我、入院　など　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③株式・債券・投資信託　（目的：　高齢期の生活費　など　　　　　　　　　　 　　　　　　　 ）

６　消費者市民社会の一員として、どのようなことを大切にしてお金を使うべきか。自分の考えを書こう。

例）今の自分の生活だけでなく、環境や世界の人々そして将来の生活を視野に入れて商品を選んだり

お金を管理したりすることが大切である。